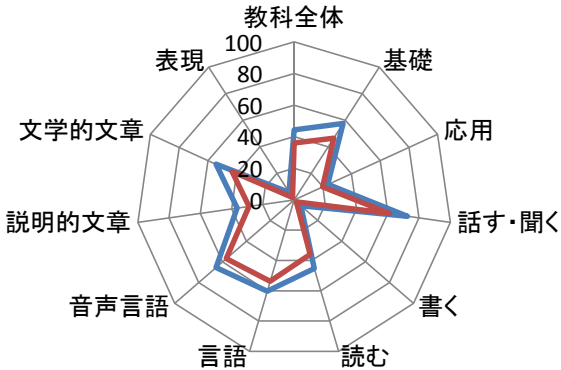


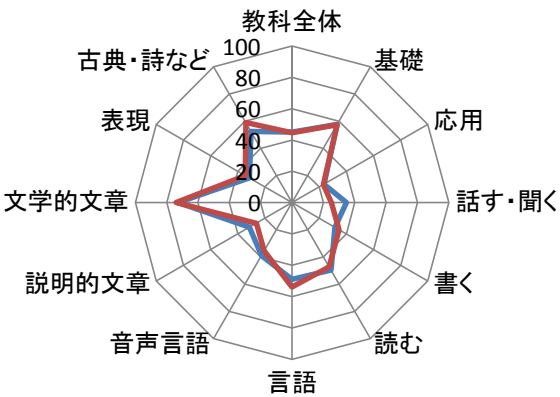
平成26年度 授業改善推進プラン

◆学力調査の結果

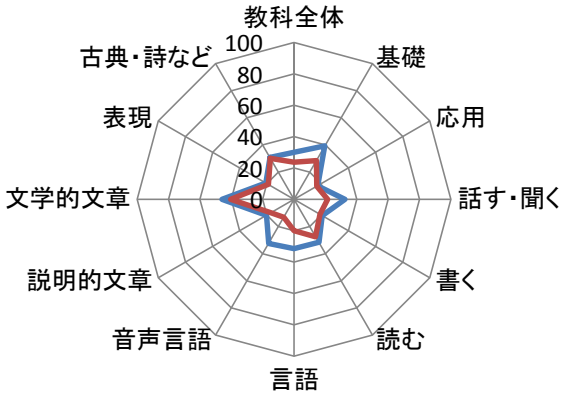
第1学年



第2学年



第3学年

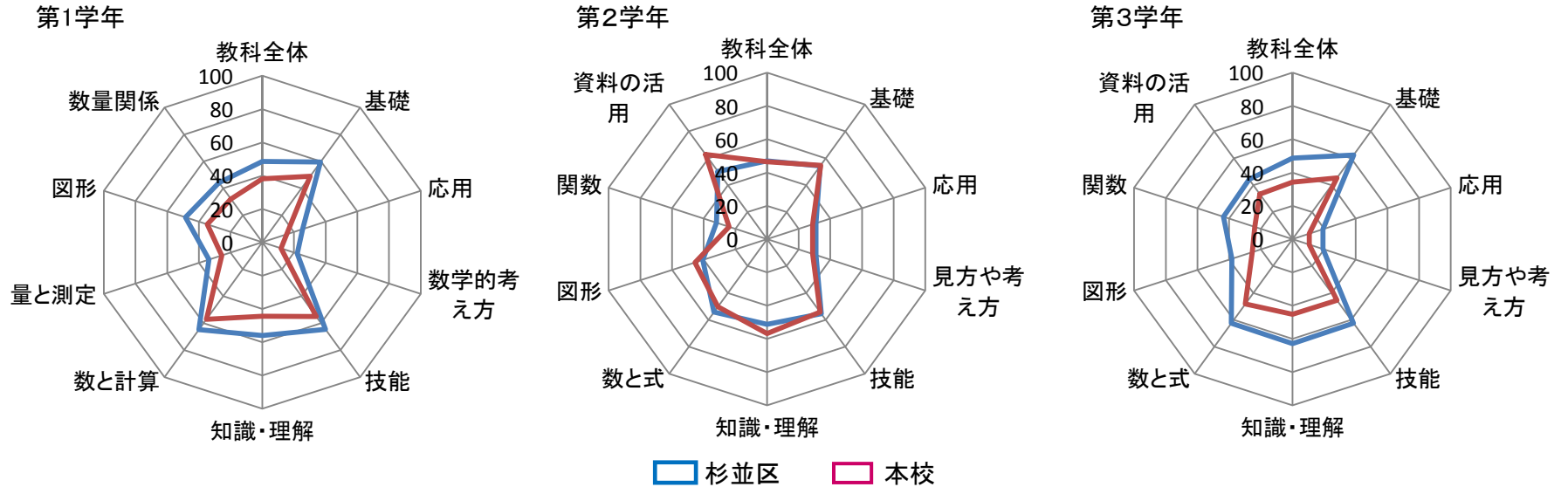


□ 杉並区 □ 本校

	教科の成果・課題	授業での取り組み (領域・単元 等)	具体的な内容 (授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導等)
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年は、毎回の漢字テストやまとめノートの作成等基礎となる学習に取り組むことができるようになって来ている。 ・2学年は、全体的な基礎力が上がり、特に文学的文章の読解力、書く力、言語力が向上してきている。 ・3学年は、文学的文章の読解力、書く力、古典・詩の読解力が向上してきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年では、授業の見通しをもつことと、理解補助のための視聴覚資料の充実を図っている。 ・漢字や語句の意味調べ、短文作りなど、語彙を増やすために反復学習をさせている。 ・読み取って書く力の向上のため、文章中の記述を全体で共有しながら自分の考えを書くことを意識して指導している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年では、授業の始めに今日の学習の流れを説明し、取り組みの目安をもてるように確認している。また、ICT機器を用いて、板書やプリントへの記入の仕方、理解補助のための資料の提示等を丁寧に行うようにしている。 ・2・3学年では、毎週漢字テストを行ったり、文章を読んでいく中で辞書を引いて意味調べをさせたりすることで、言語力の向上を図っている。古典や詩などを読む際も、言葉にこだわりながら文章の内容をとらえさせるとともに、自分の考えをしっかりとらせるようにしている。 ・文章の読解では、必ず文章や記述をもとに自分の言葉でまとめる活動を入れ、読みとって書く力の向上を図っている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年は、全体的に区の平均を若干下回っている。宿題や復習等、自分に合った家庭学習の取り組み方を知り、基礎的な学力を向上していけるようにしたい。 ・2学年は、「話す・聞く」「音声言語」に課題がある。話を聞き、要点を整理することや、メモの取り方が分からない生徒がいる。 ・3学年は、「基礎」「話す・聞く」「言語」「音声言語」に課題がある。基礎力がまだ足りない生徒が多い他、話の要旨をつかむことが苦手な生徒が多 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き取りテストによって、大事な部分を考え、メモを取りながら整理できるよう繰り返し指導する。 ・話し合い活動において、伝え方を工夫したり、視点を定めて話を聞いたり、キャッチボールを意識して取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メモの取り方を繰り返し確認し、さまざまな文章や音声言語を聞き、要点を整理しながら内容を把握できる力をつけさせる。 ・話し合い活動を効果的に取り入れる。 ・漢字テストや文法小テスト、故事成語調べなど、語彙を増やすために反復・継続をさせていく。

平成26年度 授業改善推進プラン

◆学力調査の結果



	教科の成果・課題	授業での取り組み (領域・単元 等)	具体的な内容 (授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導等)
成果	2, 3年生の「見方や考え方」、1年生の「数と計算」の平均と杉並区の平均との差が、他の部分に比べ小さい。2年生の「知識・理解」「図形」「資料の整理」の平均が杉並区を上回っている。	「見方や考え方」は、発表形式を取り入れているため、考える力が着いてきたと思われる。2年生の「図形」「資料の整理」は、デジタル教科書を使い、視覚的に確認することで、定着できたと思われる。	発表形式の授業を継続する。その際、班単位での発表形式にとられず、2人や個人単位でも常に、理由や説明を考えることを定着させる。デジタル教科書やシュミレーションソフトを更に有効活用していく。
課題	3学年とも「数と式」の領域で平均が低い。基礎的な能力の不足が考えられる。特に3年生は応用より、基礎の平均の差が大きいので、基礎的な学力を定着させる必要がある。2年生は「関数」の領域で、1年生は小学校の学習全般での積み残しが大きいことが分かった。	「数と式」の基礎的な技能力は、毎日の計算練習をしていく。「関数」の領域は2年生で1次関数が出てくるので、そこで比例・反比例を学び直していく。1年生は導入で小学生で学習したことを学び直し、違いを比較しながら学習していく。	授業の最初の5分間で、計算問題を行っていく。問題を漠然とではなく、正しく理解させるため、線分図や表グラフなど、理解したことを視覚的に表す練習を繰り返す。宿題を出し、家庭学習の定着を図る。

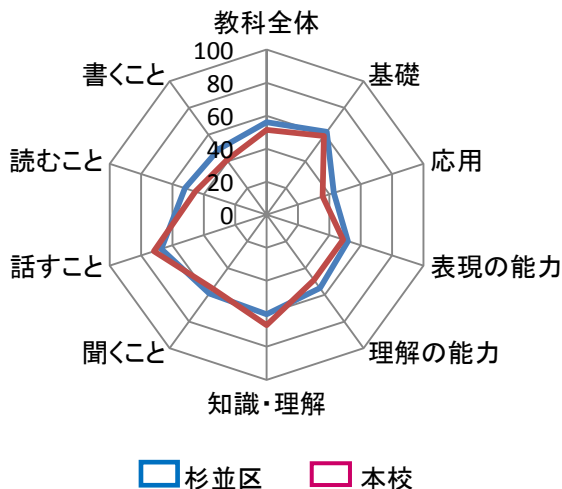
平成26年度 授業改善推進プラン

◆学力調査の結果

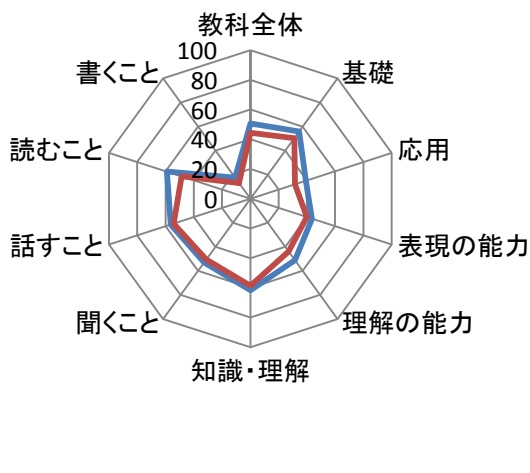
第1学年

テストなし

第2学年



第3学年



	教科の成果・課題	授業での取り組み (領域・単元 等)	具体的な内容 (授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導等)
成果	小学校外国語活動の結果、「話すこと」「聞くこと」の領域では区の平均を上回っている学年や、それに近い学年もある。また知識・理解も区の平均に近いので、単語テスト・熟語テストを継続的に行ってきた結果であると思われる。	授業の始まりで英語日直が自分自身に関する事など、まとまった英文を自分で考えて発表することを取り入れている結果、話すことに関しては高い数値が出たのだと思われるので今後も継続させたい。単語や基礎的な知識は小テストを行っているで数値が他の項目に比べて高いと思われるので、それを継続させていきたい。	発言を授業でチェックしているので授業に積極的に参加している結果、授業内に集中力が切れている生徒がいない。英語日直を継続させ、話す力をさらにつけさせる。ノート点検をこまめに行い、さらに予習・復習を定着させる。 また、デジタル教科書などのICTを活用し、視覚教材の工夫に努め、生徒の興味関心を引き出すようにする。
課題	「読むこと」「書くこと」の領域においては不十分であるため、今後の授業改善が必要とされる。また、文の構造(文法)が定着できていない生徒が多く見られるため、今後も授業内で復習を取り入れなければならない。	長文読解など長い英文を読む力をつけさせたい。多読ということで、薄い英語本を購入して教室に置いている。また、3年生においては、入試で短い時間で長い英文を読みとる力がないといけなないので、授業で取り組んでいきたい。	書く力を伸ばすために、英作文の授業を取り入れるなどの工夫が必要である。また、応用力をつける前に、基礎的な力を定着させるためにプリント学習の内容の精選をしていきたい。長文読解については短い時間で読む習慣をつけるようにプリント類を準備していきたい。

平成26年度 授業改善推進プラン

杉並区立和泉中学校

【理科】

	教科の成果・課題	授業での取り組み (領域・単元 等)	具体的な内容 (授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導等)
成果	1年、2年、3年共に、自然現象に関心を持っており、一つの事象に対してたくさんの疑問を持つことができ、意欲的である。また、実験に取り組む姿勢も意欲的であり、積極的に実験をおこなうことができる。2年の東京都学力調査では、「教科の内容」で東京都の平均を8%上回っていた。	体験的な学習として、それぞれの単元で実験を多く取り入れるようにしている。その中で、化学、物理単元の実験においては、実験の結果から考えるという取り組みをおこなう。また、実験の結果を、図を含めた文章で表現させる機会をつくり、自分の考えを表現させるようにする。	実験の際にプリントを用意し、実験の結果を文章や絵で表現させるようにする。また、感想と考察の違いを説明し、常に考察を書かせるようにすることで、自分の考えを持たせ、表現させる。 また、実験の安全性を確保しながら、班で協力をして実験を進められるように指導し、実験の技能を高め、結果を導き出すことができるようにする。さらに、ICT機器を活用して、イメージや表現をしやすくする。
課題	1年、2年、3年共に、実験の結果から考察することを苦手としている。また、実験の結果を文章にして伝えることも苦手としている。自分の考えを持ち、自分の言葉で表現ができるようにする。特に1年生は、考察と感想の区別がつかないことが多いので、区別をしっかりとつけるようにする。2年の東京都学力調査では、「読み取る力」や「解決する力」が東京都を下回っていた。	2、3年生においては、新単元を学習する際に、すでに学習した単元との関連性を持ち、単元の最初に、既存の学習内容の復習をおこなうようにする。	学習している単元と、世の中で広く用いられている身近な電化製品から、不思議な自然現象までのつながりを理解させるための話を授業の中でする。

【社会】

	教科の成果・課題	授業での取り組み (領域・単元 等)	具体的な内容 (授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導等)
成果	・学校休業日にレポートを作成させていることが「技能・書く」力で東京都を10%近く上回る成果につながった。 ・どの学年も、積極的な発言がみられるなど、社会科への関心の高さを感じている。	・第1、2学年では、単元終了時に、まとめ学習を行い、自分の考えをまとめてからグループで話し合っって意見をまとめ、クラス全体に発表している。表現力や知識理解の向上につながっていると考える。 ・第3学年は、発問の場面を多く設けて、なるべく多くの生徒に返答させている。思考・判断・表現力の向上につながると考える。	・ノートは、板書を写すだけでは不十分で、話をしっかりと書きとり、あとで自分がノートを見返したときに授業内容を再び理解できるように作ることを指導している。書きとる力は、学年を追うごとにはっきりと向上している。 ・授業では書画カメラを使用し、資料集の資料などを拡大表示しながら進めている。これにより、生徒の関心を高め、理解を深めることができていると考える。
課題	・「読み解く力」がそれぞれ東京都をわずかに下回った。 ・どの学年も、一部の生徒が定期考査前の学習への取り組みや意識が弱く、基礎力不足の生徒が多い。 ・第3学年では、夏季パワーアップ教室で、既習事項の基本的な部分で積み残しをしている生徒が見られた。	・第1、2学年では、これまで以上に、日ごろの授業での発問や作業を増やすことと、単元の終わりの振り返りまとめ学習を継続し、生徒各自にしっかりと取り組ませることで、意識を高め、基礎力の定着、向上を図る。 ・第3学年では、総復習のワークを配布し、とくに受験時に得点力を高められるように指導していく。	・まとめ学習をする際に、前もって課題を自宅で作業してこないこと、授業での話し合いに参加できず、グループ学習の効果を上げにくい。作業をしていくことの大切さを根気よく指導していく。 ・書画カメラを中心に、さらに授業理解を深められるICTの活用を工夫していく。

平成26年度 授業改善推進プラン

杉並区立和泉中学校

【音楽】

	教科の成果・課題	授業での取り組み (領域・単元 等)	具体的な内容 (授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導等)
成果	歌唱表現、合唱、鑑賞、音楽理論、それぞれの領域で意欲的に授業に参加し、表現力を高めている。特に、歌唱、合唱の分野では、楽譜をしっかりと見つめ、楽譜に書いてあることと、楽譜には書いていなくとも、どのように表現していきたいかを考え表現にいかせる授業が展開できた。	<歌唱>詞に込められた思いと音楽の流れを感じ取り曲想にあった表現を考えていく。旋律を歌い上げる力を付ける。<合唱>自分の声の特質にあったパートを選び、他のパートと協力し合い1つの作品を全員で表現していく。<鑑賞>時代背景・曲の構成を知り音楽を深く聴き取る力を付ける。	・パート練習などのグループ活動などリーダーを中心にしっかりと取り組んでいる。
課題	生徒に考えさせ発言できる授業を展開していきたいが、週1時間という制約の中、なかなか思うようにいかないのが現状ではある。表現分野では、時代背景や歌詞に込められた思いを感じ取りながら自分たちで表現を工夫できる力を育てていきたい。鑑賞分野では考えさせ驚きを感じる授業展開を更に工夫していきたい。	言語活動をもっと取り入れていく。 ICTを活用した授業を展開していく。	・パート練習などのグループ活動でリーダーだけでなく全員が互いに意見を交換するよう指導していきたい。(言語活動の充実)

【美術】

	教科の成果・課題	授業での取り組み (領域・単元 等)	具体的な内容 (授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導等)
成果	デッサンやデザイン制作を通して基礎的な表現に対する能力が少しずつ養われてきた。特に3年生では、基礎的な能力を活かし、自分自身の表現したい意図を表せるようになってきた。さらに作品の感想や表現方法の工夫した点などを発表していく言語活動や書画カメラなどICT機器を活用することで、互いに刺激を受けて、生徒の制作意欲も高まってきた。	・基礎的な表現力を高めるためのデッサンの制作活動 ・自分自身の作品の制作活動における言語活動の充実 ・机間指導による個別指導の充実 ・書画カメラなどICT機器の活用	・絵画・彫刻及び工芸・デザインの様々な制作活動の中で、デッサンをする制作活動を積極的に取り入れ、様々な造形活動を通して、基礎的な表現力や創造的な技能を高めていく。 ・各作品ごとの制作活動を通して、言語活動を充実させるために、自分自身の作品の感想や表現方法の工夫などを発表させることで、生徒が互いに刺激を受け合いながら、自分自身の制作意欲を高めていく。またICT機器などを活用することにより、さらに制作意欲につなげていく。
課題	様々な制作活動を通して、今後も継続的に基礎的な表現力の向上を図る。また制作活動を通して、より多くの生徒に可能な限り、数多く発表する機会を設け、言語活動の充実を目指していく。また、書画カメラなどICT機器を活用することで、他の生徒の作品をよりよく見せ、生徒の制作意欲をさらに高めていきたい。	・基礎的な表現力を高めるためのデッサンの制作活動の継続 ・言語活動を取り入れた作品の制作活動の継続 ・ICT機器などの活用の仕方	・机間巡視をする中で、生徒の状況に応じて、個別指導を展開し、制作活動を充実させていく。

平成26年度 授業改善推進プラン

杉並区立和泉中学校

【技術】

	教科の成果・課題	授業での取り組み (領域・単元 等)	具体的な内容 (授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導等)
成果	作品等の製作活動を通して、基礎的・基本的な工具の使い方、キーボードやマウスの操作方法、かつ、安全第一で作業を行う態度はできてきた。またデジタル教科書の動画や実物投影機等のICT機器を活用することによって興味・関心を高め、より理解も深まった。	・デジタル教科書の動画や実物投影機等のICT機器の活用 ・基礎的・基本的な工具の使用方法、PCの操作方法、安全第一で作業を行う態度の育成	実物投影機やスライドや動画の教材等ICT機器を活用した授業を展開し、興味・関心を高めるようにしていった。
課題	グループ学習等の共同作業や発表等の言語活動をする機会を増やし、よりわかりやすい授業を目指していく。また、今後もICT機器を活用してさらなる製作意欲を高めていきたい。	・グループ学習等の共同作業 ・言語活動を取り入れた製作活動 ・ICT機器の発展的な活用	2学期以降は実習が中心となり、また作品も完成に近づいていくので、安全に配慮して作業がおこなわれているか・進捗状況・実技における工具の使用等の確認、指導を中心に机間巡視をより多く行う。またグループ学習等の共同作業や発表等の機会を増やして製作意欲や技能を高めたり、工夫する能力を育んだりしていく。

【家庭】

	教科の成果・課題	授業での取り組み (領域・単元 等)	具体的な内容 (授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導等)
成果	衣生活分野で、基礎的な技術を生かし自分の個性を出した作品製作ができた。どの学年でも製作やレポートを限られた時間の中での作品製作を通して、自分で目標を持って集中して取り組むということを身につけるきっかけになった。	1、2学年：「生活を豊かにする小物を作る」では、個性を出すために自身でデザインを考え、仕上げるよう工夫をした。 2、3学年：よりよい家庭生活のための、食生活、消費生活を学習し、家庭で実践しレポートにした。	授業1時間ごとを集中するために、各1時間の内容、目標と、これからの見通しを時間の初めに明確にし、各自の目標がはっきり持てるよう工夫した。基礎的な内容定着のための小テストをおこなった。書く時間の授業内容確認プリントには感想を書くことで、理解の程度を把握し次の授業でのてがかりとした。
課題	グループにして製作活動をしたり、学んだ内容に対しての実践レポート発表をすることでお互いの良いところを認め合い、よりよい授業、作品製作を目指してきたが、これを続け、さらに製作や実習意欲を高め、実生活に結び付くように、していきたい。	書画カメラなどICT機器の活用より、視覚から理解の充実を促し、より実践をスムーズにできるような足がかりとする。	製作、実習に対して、ポイントを絞った例示を多用したい。実践レポートの発表は、意見をさらに正確に伝えるられるよう書き方の工夫や、グループで話し合うことでより深い理解に結び付けたい。

平成26年度 授業改善推進プラン

杉並区立和泉中学校

【保健体育】

	教科の成果・課題	授業での取り組み (領域・単元 等)	具体的な内容 (授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導等)
成果	<p>どの種目でも、1年から2年、2年から3年に上がるにつれて、基礎基本的な動作が定着し、種目の特性により深く触れることができるようになっていく。</p> <p>ここ数年、手のかかる生徒が多く、小学校段階で習得しておくべき技能が身につけていない生徒が多くなってきているため個別指導で対応している。</p>	<p>どの種目でもペア学習、教員がそれぞれ個別について指導することで、お互いの関わり合いが増え技能の向上の一助となった。また学習ノートで課題を明確にし、つまづきを知ることで課題の解決に生かしている。</p>	<p>着替え、集合、授業での行動など素早くできるように指導している。視聴覚教材を使い（副読本、プロジェクター）、動きをイメージをしやすいようにしている。学習カードの記入等で、課題解決に役立てている。</p>
課題	<p>体力診断テストでは、1年男子は、「持久力」が低い傾向にある。1年女子は「ハンドボール投げ」が低い傾向にある。2年男子は「握力」が低い傾向にある。2年女子は「ハンドボール投げ」が低い傾向にある。3年男子は「持久走」が低い傾向にある。3年女子は「ハンドボール投げ」が低い傾向にある。</p>	<p>1年、3年の男子は、年間を通して持久走を取り入れるなどしていく必要がある。2年の男子は鉄棒などの運動を取り入れる必要がある。</p> <p>全学年を通して女子は、投げる力が不足している。球技などの中で、投げる動作を丁寧に指導し、できるだけ多くボールに触れさせることが重要である。</p>	<p>1年、3年の男子は、1月の授業での長距離走（12分間走）だけでなく、各授業の初めに5分間走を取り入れていくことが効果的である。</p> <p>2年男子については、校庭で行う授業の時に、鉄棒ぶら下がりなどの補助運動を毎回取り入れていくことが必要である。</p> <p>女子については、左記のとおりである。</p>